



部活動について ラスト



11月2日の第45号から第52号を除いて第60号までの15回にわたって部活動のことを書いてきました。文部科学省やスポーツ庁からの文章の紹介がほとんどでしたが、是非とも、内容を理解していただきたいと思います。

第60号に書いたことを、もう一度書きます。

- ①地域において、自分なりのペースでスポーツに親しみたい生徒や、一つの運動種目だけでなく複数の運動種目のスポーツを経験できる活動に参加している生徒等の成果発表の場としてふさわしい大会
- ②中学校等の生徒の中には高い水準の技能や記録に挑むことを重視する生徒が日頃の練習の成果を発表する場
いつの間にか、①が消滅し、②だけになり、トップアスリート優先の外部のクラブしかなくなってしまって、限られた人たちしかスポーツができない、そんな社会になっていることです。

いつの間にか、①が消滅し・・・と書きました。

消滅する前に、まず、成立すること。それが、とっても大変なことだと思います。

②については、今ある『全国中学校大会』が、発展的に幕を下ろして、競技団体が主催する大会に移行してゆくことで、ある程度の道筋が見えますが、①については、まさに、かつてないものを創造してゆかねばなりません。それを、だれが担っていくのか。

学校は、生徒の育成に関わる主体の一つとして、地域におけるスポーツ団体等と協力・協働して地域のスポーツ環境の整備充実に取り組む必要がある

このように、第57号にありましたね。その通りだと思います。

しかし、今の公立中学校には、このことに取り組める余力があるのでしょうか。

先生方は、限界いっぱいまで働いている人がほとんどです。

『学校の働き方改革を踏まえた部活動改革』から始まった『運動部活動の地域移行』です。

残念ながら、かなり厳しい状況だと思います。

誰かがやってくれるだろう、では、きっと前には進まないと思います。

相当な覚悟をもって、市民一丸となって取り組まなければならないことだと思います。

未来を担う、子どもたちのために。

①も②も ともにめざす、【金沢龍谷高校中等部の部活動】と書きました。

私は、私のやれることをやらねばならないと思っています。

金沢市中学校体育連盟の理事長を4年間、会長を5年間させてもらった私には、金沢市に恩返しをする義務があると、心から思っています。

胸をはって、子どもたちの未来に向き合える金沢市にしたいのです。